

9月は認知症月間でした



役場第1庁舎がオレンジ色に染まりました

9月16日～29日の2週間、役場第1庁舎に設置してある懸垂幕がオレンジ色にライトアップされていたのを見ていただけたでしょうか？ オレンジ色は認知症月間のシンボルカラーです。

昨年、総合福祉センターと福祉しあわせセンターをライトアップしました。今年はこれに加え、役場の壁面をオレンジ色に染める大規模なライトアップが行われました。

■保険課地域包括ケア係
☎079-435-0313

※今後もイベントごとに庁舎をシンボルカラーにライトアップします。色の意味は毎月の広報はりま（今月はp25）でお知らせします。

表敬訪問

さまざまな分野で活躍している人が
播磨町長を表敬訪問しました。



兵庫はりまヤングバレーボールクラブ
JVA第29回全国ヤングクラブバレーボール大会出場



播磨ヤマトソフトボールクラブ
第21回全日本ハイシニアソフトボール大会出場

うれしい報告が
ありました



高橋 大輔さん
2026年世界カデ柔道選手権大会出場
(母校で播磨小学校出口教頭と撮影)



松本 宗士さん（播磨中学校2年生）
若林 咲希さん（播磨南中学校1年生）
第20回全国中学生少林寺拳法記念大会出場

Q いいとこ

検索

いいとこ検索 Vol.35

令和8（2026）年11月号



▲別府鉄道3両目に黒い貨車が増えました

▶「秋風にたなびく雲のたえ間よりもれいづる月の影のさやけさ」9月25日は中秋の名月。「月に叢雲、花に風」あいにくの曇り空でしたね。そこにあるだけでなぜか心惹かれる「月」。この国にはその姿や時の移ろいを表す美しい言葉がたくさんありますね。新月のあと、かすかに姿を現す「朧」、半分の「上弦」「下弦」、「十五夜」前の「十三夜」「待宵」。そして「十五夜」翌日の「十六夜」は、月が迷いながら遅れて昇る姿から「ためらう」という意味で「いざよい」と呼ばれています。さらに、「立待」「居待」「臥待」「更待」と続き、古来、一夜一夜に名前をつけて風情を楽しんできました。文豪、夏目漱石も「I love you」を「月がきれいですね」と訳したとか（諸説あり）。月見の秋、夜長を満喫したいですね。

▶最近では、分からないこともAIがすぐに教えてくれます。目まぐるしく進化し、生活を便利にしてくれるAI。けれど、その答えを見て「なんとなく分かった気」になっていませんか。情報が溢れる時代だからこそ、示された答えを鵜呑みにせず自分の頭でしっかりと考え、真偽を見極める力がますます求められます。「熟慮を重ねることによってのみ、読まれたものは、真に読者のものになる。食べ物は食べることによってではなく、消化によって我々を養うのである」とは哲学者ショーペンハウアーの言葉。本を読むとは知識を得るだけでなく、自分の中で咀嚼し、理解を深めることなのかもしれません。播磨町立図書館では、読書を記録する手帳「としょかんポケットダイアリー（としょポケ）」を配布しています。10月27日から11月9日は読書週間。読書の秋、本の世界に浸りながら、考える力を育ててみませんか。

▶鉄道ファンに耳よりのお知らせです。播磨町郷土資料館横に展示している別府鉄道が、魅力を増して帰ってきました。機関車と客車に加え、このたび多木化学株式会社様からご寄贈いただいた貨車の連結工事が完了。関係各位のご厚意とご尽力に心より感謝申し上げます。行楽の秋、鉄道の旅もいいですが、時を超えてよみがえった「多木のガッタン」をぜひご覧ください。鉄道ファンには、乗るのが好きな「乗り鉄」、写真撮影に情熱を燃やす「撮り鉄」、模型づくりが趣味の「模型鉄」などがあるそうです。中には時刻表を研究する「時刻鉄」、走行音や駅の発車メロディーを楽しむ「音鉄」なども。私はやっぱり駅弁目当ての「食べ鉄」かな。食欲の秋です！

播磨町長 佐伯 謙作

あんぜん・あんしん 暮らしのメモ帳

利用していないのに
支払い続けていた！
サブスク(サブスクリプション)の
契約に注意！

【事例】SNSに表示された「アンケート」の広告を見て「お試し」のつもりで申し込んだ。診断結果を見るには199円」と表示されて、クレジットカードの明細を確認したら、毎月4,999円が引き落とされていて、海外サイトとサブスクリプション（以下「サブスク」）契約になっていたことがわかった。どうすればよいか。（40代女性）

【ひこく助言】
●サブスクとは？
定められた料金を定期的に支払うことにより、商品やサービスを利用することが

できるサービスです。一般的に一度契約をすると解約をしない限り自動的に支払いが継続されます。

●契約内容を確認しましょう
サブスク契約のトラブルはSNS広告がきっかけの例が多く見られます。「お試し」でも、無料期間終了後に自動的に有料契約に移行する場合があります。自動更新に注意しましょう。

●解約方法を確認しましょう
スマートフォンのアプリの場合には、アプリを削除しただけでは解約にならない場合があります。解約時に必要となるIDやパスワード等は保存しておきましょう。

●クレジットカードやキャリア決済等の請求を確認しましょう
被害を最小限に防ぐ為にも明細をこまめに確認しましょう。

播磨町消費生活センター
☎079-435-1999
電話、来訪どちらでも相談できます。来訪の場合、産業環境課窓口にお声がけください



まちづくりについて、堂々と一般質問を行いました



播磨中学校の中学生議員と教諭



播磨南中学校の中学生議員と教諭

播磨町中学生議会を開催
9月18日、播磨町役場にある議場の議員席に町立中学3年生6人の中学生議員が揃い、岡田千賀子議長の進行のもと、町長はじめ町職員に一般質問を行いました。中学生議員は、各学校で播磨町についての話し合いを重ね、意見を集約し、一般質問に臨みました。
ほかの中学生の皆さんも学校でライブ中継を見て、臨場感あふれる議会を体験し、まちづくりを考えるきっかけとなりました。
☎ 079-435-0545
問 地域学校教育課

力を合わせて特定外来生物を駆除しました！



ナガエバスターズ5を開催しました
10月3日、喜瀬川上流にて外来植物のナガエツルノゲイトウを駆除する「ナガエバスターズ5」を開催し、町内外から約30人が参加しました。
ナガエツルノゲイトウは、国が特定外来生物に指定している南米原産の水生植物です。非常に強い再生力・繁殖力を持つていることから「地球上最悪の侵略的植物」と呼ばれています。
駆除作業は川に入って水を含んで重くなった植物を集めるなど、体力を使うものですが、参加者の皆さんの協力により約70袋分のナガエツルノゲイトウの回収・駆除に成功しました。
参加者には専門家から、特定外来生物への理解を深める講座も実施しました。
☎ 079-435-2721
問 産業環境課環境係

みんなでおどろう！『はりま音頭』



町内各地で『はりま音頭』実施
今夏、播磨町ビアガーデン、はりまシーサイドつながりフェス、地域のお祭りなど、町内のさまざまなイベントで『はりま音頭』のメロディーが響きました。
昭和55年7月に誕生した『はりま音頭』。完成した年の最初の夏祭りには、5千人以上の人が参加し、大きな輪をなして踊ったそうです。
播磨町で長く愛されてきたこの曲を、これからも多くの人に楽しんでほしい。その思いから、現在、『はりま音頭』の踊り方を紹介する公式動画の制作を進めています。完成は来年の3月頃を予定しています。

☎ 079-435-0356
問 企画課秘書広報係



みんなでおどろう！
ふるさとのおうた

戦没者のご冥福と恒久平和を祈念しました



平和展



戦没者追悼祈念式

播磨町戦没者追悼平和祈念式と平和展
9月26日、中央公民館大ホールで播磨町戦没者追悼平和祈念式を執り行いました。参列者による献花や、町内小学生児童による平和の詩の朗読が行われ、戦争で犠牲になられた方々のご冥福と恒久平和の実現を祈念しました。
また、中央公民館ロビー、図書館2階、土山駅南交流スペース（きつづなホール）では、9月25日から10月1日まで平和展を開催し、戦争に関する資料の展示や、平和学習DVDの上映を行いました。
戦争の悲惨さと平和の大切さについて、皆さまで共に考え、あらためて平和を祈念しました。
☎ 079-435-0311
問 健康福祉課地域福祉係
☎ 079-435-2364
問 協働推進課住民協働係

はりま☆キッズタウン☆ニュース

第2期子ども会議（3回目）を開きました

問い合わせ先 ともども課 ☎ 079-435-2362



9月に第3回ともども会議を開きました。
今回は、弁護士の前で、子どもたちの権利のうしろの情報を「権利」についてお話を聞きました。子どもには、いろいろな情報を知って、自分で考える権利があることを教えてくれました。そのために国は、子どものためになる情報を広めたり、外国の情報も知ることができるようになりました。子どもは、本をたくさん作ったり、日本語がわからない子どもにも情報を届ける工夫をしたり、子どもを傷つける情報から子どもを守ったりすることを大切にしていると話してくれました。
次に、播磨町の安全・安心を守って、危険な管理課の職員から話を聞きました。この日は、委員の子ども

もたちは、かい中電灯や水を入れる袋、避難用具が一つにまとまっているボトルなど、災害用の備蓄を一つ持っていてくれました。グループワークでは、災害時に必要なものを考えて発表しました。子どもたちが考えたものについて、危機管理課の職員は「町で準備しているものもあるが、全員分を準備することはできない。お家で準備できるものは準備してほしい」と言われていました。そこで、子どもたちは、どうしたら家での備蓄をみんながしてくるようになるのかについてのアイデアを出しました。その中で家で備蓄しているものを自慢しあう「備蓄じまん大会」というアイデアについて、危機管理課の職員は「おもしろいアイデア。学校などでできると楽しいかもしれないですね」と言われていました。

次回11月の第4回ともども会議には、企画課の職員が来る予定です。

